

科目「中学美術」シラバス

1. 中学3年での教科到達目標

「スクラッチ素材」を使い、新しい絵画表現を模索しながら、各自が創意工夫し作品をつくる。さらにその絵に合う額も制作し、統一感のある完成度の高い作品を目指す。	「絵本」の制作を通して、アイデアや自己感情をどのようにしたら相手に伝わるかを考え、表現していく能力を高める。ストーリーと絵の構成バランスも養う。	「木彫木箱」では、手のひらサイズの木箱にさまざまな種類の彫刻刀を使い分け彫刻し、その上から絵も描いていく。小さな箱に自分だけの世界観を凝縮して表現する。
---	--	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 美術 (科目) 美術	2 単位	第 3 学年	教科書：美術 2.3 下 美術の広がり(日本文教出版) 画集
学習の到達目標	自己の感情や考えなどを作品に表現し、物事を観察する力の育成。作品の完成した喜びを感受する。		
評価の観点	<知識・技能> 自己のイメージに近づけるために必要な技術や表現方法を身に着ける努力を惜しまない。		
	<思考力・判断力・表現力> 柔軟な思考や発想を持ち、豊かな感性をさらに育てようと自ら取り組む。		
	<主体性・多様性・協働性> 美術のそれぞれの課題の内容に関心を持ち、創作活動の喜びを味わいながら表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】		
A：「十分満足できる」状況と判断されるもの	・・・	100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	・・・	80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの	・・・	60%
D：未提出，未実施	・・・	0%

3. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	1. スクラッチ素材 「ニューアートグラス」 を使い新しい絵画を表現	・柔軟なアイデアやひらめきを引き出す。 ・描きたい絵をじっくり考え下図を構成する ・新しいスクラッチ素材に触れ自分の表現の幅を増やす。 ・絵画の明暗を意識する。 ・ニードル、彫刻刀などでスクラッチをする際、線の表現を理解する。	・いつもの表から描く絵画とは違い、裏側からスクラッチ（削り）しながら、透明になった部分に着色する。 ・まずは輪郭からスクラッチして、明るい部分から描いていくという手順を理解する。 ・カッティング面の削り具合で質感や立体感が得られる。
	2. 「額縁制作（木製）」 「ニューアートグラス」 の絵画作品に合わせた額 縁の制作	・絵画に合うような額のデザインを考える。 ・木製の額を組み立て絵具を塗布して完成させる。	・スクラッチ絵画に合わせ、額縁をデザインすることで一体化した完成度の高い作品を生み出せる。
	3. 「鑑賞と講評」	・クラスごとに制作した作品を鑑賞、発表する。	・クラス全体で意見の交流を行う。 ＜使用教材＞ ・スクラッチ素材「ニューアートグラス」 ・美術 2.3 下 美術の広がり（日本文教出版）

夏休み課題	1. 「絵画」の提出	・普段とは違う夏休みだからこそ絵画とゆっくと向き合い世界を自由に広げていく。	・スケッチブック A3 サイズ 絵具、色鉛筆等
2学期	1. 「絵本制作」 2. 「鑑賞と講評」	・絵本のシナリオ作成 ・絵と文字でオリジナルの絵本を作る。 ・様々な良い絵本を知ること でさらに興味を持たせ主体的に取り組む。 ・クラスごとに制作した絵本を鑑賞、発表する。	・身近な興味のある事柄や心の世界などを、どうしたら相手に伝わりやすいかを考える。 ・イメージを具体化させる。 ・クラス全体で意見の交流を行う。
冬休み課題	なし		
3学期	1. 「木彫木箱制作」 2. 「鑑賞と講評」	・木箱のデザインを考える。 ・木箱に下描きをする。 ・下描きの上から彫刻をしていく。 ・絵具で着色。 ・彫刻と絵具による自己表現の探求 ・ニスを塗り完成させる。	・さまざまなアイデアを出しデザインを構築していく。 ・箱は立体なので全方向のデザインが繋がるように思考する。蓋の裏まで絵付けをして遊び心も表現していく。 ・さまざまな彫刻刀で彫刻技法を使い分け、さらに絵具の乗せ方、筆使い、色の表現を学ぶ。

4. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> 自己のイメージに近づけるために必要な技術や表現方法を身に着ける努力を惜しまない。	作品提出
<思考力・判断力・表現力> 柔軟な思考や発想を持ち、豊かな感性をさらに育てようと自ら取り組む。	作品提出
<主体性・多様性・協働性> 美術のそれぞれの課題の内容に関心を持ち、創作活動の喜びを味わいながら表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。	課題提出状況や、授業内の様子で判断。

【提出物状況の評価基準】

- A：積極的に集中して課題に取り組み、より良い作品となっている。
- B：良い作品にしようという努力をしている。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：未提出、未実施